

## 「JENESYS2023」日本青年研究者訪中団の記録

### 1. プログラム概要

【目的】本事業は、中国の哲学・社会科学の最高機関である中国社会科学院の招聘に応じて日本の大学・研究機関等に所属する青年研究者を中国に派遣し、「ヘルスケア産業における日中協力」をテーマに中国社会科学院をはじめとする中国の研究機関・政府関係部門等を訪問し、青年研究者及び関係者との交流を行うほか、地方都市の視察等を通じて、中国についての多面的な理解と、日中両国青年間の友好を促進することを目的として実施しました。

【参加者】日本の大学・研究機関等に所属する青年研究者等 10名

【訪問地】北京市、山東省

#### 【日程】

##### ■ プレプログラム

2024年3月1日（金） オンライン事前オリエンテーション

##### ■ 派遣プログラム

2024年3月10日（日）～3月16日（土） 6泊7日

3月10日（日）北京首都国際空港より中国入国

3月11日（月）【訪問・交流】中華人民共和国外交部

【視察】天壇公園

【夕食交流会】中国社会科学院日本研究所

3月12日（火）【訪問・交流】中国共産党中央対外連絡部、中国社会科学院日本研究所

【視察】故宮博物院

3月13日（水）【視察】ハイアールグループ、青島オリンピックセーリングセンター、

青島国際会議センター

【夕食交流会】青島市人民政府外事弁公室

3月14日（木）【訪問・交流】青島市人民政府外事弁公室、中国海洋大学

【視察】新華錦グループ養老院、青島ビール博物館

3月15日（金）【視察】東麦窑村

【報告会】訪中成果・帰国後の活動計画発表

3月16日（土）北京首都国際空港より中国出国

## 2. 記録写真



3月11日【訪問・交流】  
中華人民共和国外交部



3月12日【訪問・交流】  
中国社会科学院日本研究所



3月14日【訪問・交流】  
青島市人民政府外事弁公室



3月14日【訪問・交流】中国海洋大学



3月14日【視察】新華錦グループ養老院



3月15日【視察】東麦窑村

### 3. 参加者の感想（抜粋）

◆コロナ禍の影響で2020年以来、中国は他国との人の往来を大きく減少させてきた中で、今回の日本からの訪中団が非常に待望されているものであったことを、北京、青島両都市で強く感じた。それは日中間の政治問題の存在などとは全く別次元の問題で、外国人に中国の現状を知ってほしい、日本の現状を教えてほしい、という思いを強く感じた。

社会科学院や中国海洋大学での研究者どうしの対話からは、中国人の日本認識と日本人の自国認識、また日本人の中国認識と中国人の自国認識の間に小さくないギャップがあることが分かった。日本語を話し、日本に関心を持つ中国人研究者ですらそうである（そして中国に関心を持つ日本人研究者である私自身もそうである）ので、相互の対面交流が途絶えた約4年間は、日中相互理解の観点からは非常に重いものであった、ということ改めて認識するに至った。

◆今回の訪問では、北京と青島の2つの都市を訪れる機会をいただき、北京では、外交部、中国共産党中央対外連絡部、中国社会科学院日本研究所、また青島では、ハイアールグループ、青島国際会議センター、青島外事弁公室、中国海洋大学、新華錦グループ養老院、東麦窑村を訪問し、短い期間にもかかわらず、中央から地方の基層末端の社会まで触れることができる貴重な機会を得られたことを実感した。また、今回参加した多岐の分野にわたって活躍する若手研究者の方々も、今回の訪問に多くの刺激を受け、交流活動を通して同世代の研究者とも知り合い、今後も連絡をとり合うことを約束しており、とても有意義であった。

他方、中国社会科学院日本研究所でのシンポジウム、青島の中国海洋大学での交流は、若い世代の研究者の交流の貴重な機会であったが、時間が短かった点が惜しまれる。

◆中国に対して漠然とあまり良いイメージは持っていなかったことや、日々の生活で中国に関する情報を収集していなかったため、中国についてはほとんど知らない状態であった。今回の訪問で様々な機関や立場の中国の方とお話することが出来て、中国側が考えていることや主張したい内容を直接感じることができた。また、中国の企業訪問や施設訪問では日本と中国の違いや中国の優れている点などを認識することができて、日本人として、研究者としてこれからどうすればいいのか考えさせられるきっかけになったと思います。将来振り返ってみると、今回の訪中が人生の中で大きなターニングポイントになっているかもしれません。

◆中国におけるヘルスケア産業の展開の一端について自ら見聞きしたり、中国外交部等の旅行や留学では訪問できない場所を訪問できたことは、大変貴重な得難い経験であった。また、中国社会科学院や中国海洋大学の研究者の方々と交流し、連絡先を交換できたことで、今後の活動にも活かし、根本的には日中の学術交流の活性化に資することができるのではないかと考えている。

#### 4. 報道記事（抜粋）等

<p>外交部亚洲司司长刘劲松会见日本青年学者访华团</p> <p>2024-03-11 18:08</p>  <p>2024年3月11日，外交部亚洲司司长刘劲松会见以日本南山大学教授江口伸吾为团长的日本青年学者访华团。刘介绍了中国全国两会情况和中国经济形势，阐述了中日友好和中方在日本福岛核污水排海、历史等问题上的立场。双方还就中日务实合作、学术与人文交流事宜交换了意见。</p>	<p>日本青年学者訪中団、山東省青島市を訪問</p> <p>2024/03/15</p>  <p>関連記事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国の学歴丸見え</li> <li>にぎやかな「青島」国際交流学連</li> <li>中国海軍で「ママ」招待大会</li> <li>中国の人材、海外で働く決意を表明</li> <li>春の訪れが中国の未来</li> </ul> <p>13日、海爾集團（ハイアール）を視察する訪中団のメンバー。（青島＝新華社記者/王凱）</p> <p>【新華社青島3月15日】南山大学の江口伸吾教授率いる日本青年学者訪中団は15日までの3日間に、山東省青島市を訪れ、家電大手の海爾集團（ハイアール）や中国海洋大学、青島国際会議センター、2008年北京五輪でセーリング競技が行われた青島五輪セーリングセンターなどを視察した。海洋大では中日両国の経済貿易、文化観光、歴史、社会発展などについて青年教員と交流した。一行は10～16日の日程で中国を訪問している。（記者/王凱）</p> <p>◎XJJapaneseさんのツイート</p> <p>中国 新華社 日本語版 2024.3.15 (2024年3月15日) 中国の経済圏で、2強の「マーマ」争い争いが目撃された。</p>
<p>2024年3月11日 （中華人民共和国外交部ホームページ） 「劉勁松 外交部アジア司司長が日本青年研究者訪中団と会見」訪中団が訪問した内容が紹介されました。</p>	<p>2024年3月15日（新華社通信 日本語版） 「日本青年学者訪中団、山東省青島市を訪問」青島市での視察、交流の内容が紹介されました。</p>
<p>日本青年学者訪华团来青参观访问</p> <p>青島日報/威海新聞記者 余博</p> <p>本报3月15日讯 13日至15日，日本青年学者访华团来青参观访问。</p> <p>在青期间，访华团参观考察了海爾集團、奧帆中心、新華錦長乐颐养中心、青島啤酒博物館、東莞窑村等，与中国海洋大学青年教師就中日青年人文交流和海洋合作展开座谈。访华团成员们表示，希望加强与青島青年学者间的沟通交流，为中日民间友好作出积极贡献。</p>	
<p>2024年3月16日（青島日報） 「日本青年研究者訪中団が青島市を訪問」青島市滞在中、視察や中国海洋大学の若手教員との交流を行い、訪中団団員が青島の青年研究者との交流を強化したいと表明したことが紹介されました。</p>	

## 5. 報告会での訪中成果とアクション・プラン発表



### 【訪中中の学び】

中国に留学した経験はあるが、今回、留学では行けないところに多く訪問することができ、有難く思っています。北京市や青島市で今の中国を見ることができました。

### 【アクション・プラン】

職場の経営層（中国研究をしていない方々が多数）を中心に、今回の訪中の経験を共有し、中国に対する理解増進の一助とする。



### 【訪中中の学び】

中国の多様性を感じました。ヘルスケア分野においては、スピード感があり刺激を受けました。日本の介護は憧れ、日本の様な質の高いヘルスケアが求められているという中国側からの言葉が、印象的でした。お互い進んでいる所とそうでない所があり、両国の協力が必要だと感じました。

### 【アクション・プラン】

中国のヘルスケア産業・政策について調査を進める。同僚に今回の訪中を報告する。

実施団体名：（公財）日中友好会館